

昭和三十年度

あの頃の思い出

堀 越 唯 義
(旧姓忠義)

昭和三十年度はそれまでの永い伝統の中で一番弱いチームではなかつたかと思われます。なにしろ、宮崎、熊切、萩原、乾、田坂の諸先輩が卒業していったあと新四年の中には、全日本学生優勝大会の場を踏んだ事のあるものは吉川、高松の両君のみ、又四月に入学して来る新人を含めてなんと参段が九人しかいなかつた。

対早大戦のメンバー二十五名をこの時点で組むと、はじめの方は初段になつてしまふ。

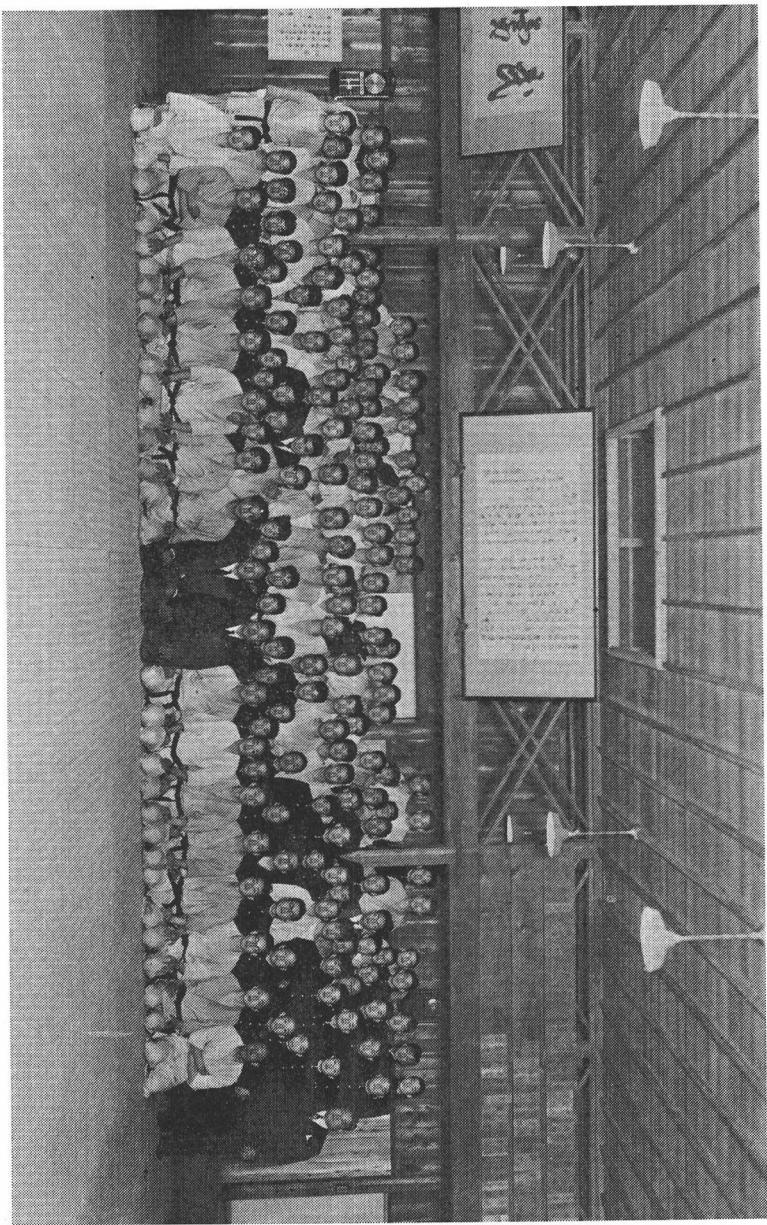
なにしろ明治十年創設の伝統をうけついだ私達にとってそれは大変な重荷でした。永い伝統といつてもそれだけで試合に勝てるわけではないし、諸先輩が毎年毎年つみ上げ後輩に受けわたして來たものだけに私達も最善の努力をし、諸先輩の築いて來られた輝かしい戦歴に華をそえて後輩にうけわたさなければならぬ。おまけに愛好クラブ的に気の合う連中で集まつて青春の一時を楽しく暮す事だけで良しとされない要求もあつた。勝つ者常に正し。とするならば勝つ為の苦しい努力もしなければならない、その苦しみをのりこえてこそ部としてのまとまり友情も出来ると當時の私達は考えていた。

この年に私達の目標は三つありました。第一は戦後の第一回大会から連續出場している全日本学生優勝大会への出

場権をがちとる事。第二に秋の対早大戦に勝つ事。第三に例年になく地方高校からの入部者の多かった此の年、彼等を柔道部の伝統に一日も早くとけこませ戦力として行く事。以上の三つが大きな命題でした。

第一の点は当時東京地区から全日本学生優勝大会へ出場出来るのは六校でした。明治、日大、の両校は全盛期にありずば抜けた力をもっていました。さらに中大、早稲田の二校もこの数年では一番充実していました。この四校は実力的に出場権をとるのは確実、するとのこる二つの椅子に塾、教育大、法政、拓大、の四校がひしめいていました。出場選手の顔ぶれから見ると、どうやら塾が一番小っぷでした。算術的に、体重、身長、段位をくらべてみればどうも塾に勝ち味はなかった。しかし試合というものは人間が戦うものだけに算術的計算とはちがった結果が出ます。たしか明治に敗れたあと教育、法政、拓大、に勝ち出場権をかくとくしました。長戸、飯塚、山際、吉川君あたりの健闘がもたらしたものでした。私にとつて幸いだった事は勝つにしても敗けるにしても大将戦までもつれこんだことがなかつた事です。気楽にやれた事です。法政の星野君とあつた時なんかは全国大会への出場権をとった後だつたし塾の勝ちもきまつたあとだったので気持よく投げられてしまったと覚えています。

第二の目標早稲田に勝つ事に向つて夏の講道館での暑中稽古、北海道遠征、練習試合、第一次合宿、第二次合宿と例年通りスケジュールを消化して行きました。とにかく勝ちぐせをつける事を第一として練習試合の相手遠征先をきめました。個々の勝ち分けは別としてチームとして闘いに勝つフィーリングを私を含めて選手にもつてもらいたかったからです。マネージャーの金成君が強くもなく弱すぎもしない相手をずいぶんと苦労して探したものでした。二十五名のチームとしてどうやって勝つか、抜き役が抜き、止め役は確実に引きわける。当時は現在の審判規定とはちがい、たとえ逃げまわっても技あり以上をとらなければ引分ける事が出来ました。云つてみれば個人にとつてはカッコ悪い試合であつてもチームに対する役割りを考えて闘う必要がありました。此の年の早稲田は実力的にははるかに塾



昭和三十年卒業生送別記念

を上まわつていきました。試合当日のメンバーでは主将の石井君と当然抜き役と思われていた何人かが抜けていました。別段塾をみくびつたわけではないでしょが結果としては、山際君のガンバリで引き分けにもつれこんでしました。とにかく全員の力であの大カップの昭和三十年の所に勝つ事は出来なかつたが早稲田の名をきざませる事を防いでしまいました。

第三の事が私達にとって一番むずかしい問題でした。前の年の夏、日光で行なわれた全国高校大会に、金成、吉川、高松、田中の諸君が中心になり、これはと思われる選手をさがし担任の先生に会い塾に受験する事をすすめる事からはじめました。大阪の山内先輩をはじめ各地の先輩がすぐれた高校選手を紹介して下さいました。何分とも当時でも塾に入学する事はなみたいていの事ではありませんでした。とにかく第一試験には実力で通つてくれなければどうにもなりません。二十九年の冬休み三田の道場に入学希望者を集めて合宿勉強を約一週間行ないました。英語、数学を中心にして一日八時間位ずつ集中的にやつたと覚えてます。幸いにして四月の新チーム編成の時に例年になく大量の入学者がありました。修猶館の城島君、東海高の竹内君、岡本君をはじめ八名の入部者があつたと覚えてます。それまでの部員は普通部、中等部からずつと一緒に仲間が多く、別段チームワークについて考える事もありませんでした。和気藹々たる雰囲気の中に地方から入部して来た新人が早急にとりこめるかどうかが大変気がかりでした。一年の福田、小倉君、二年の山際、鈴木君、三年の長戸、広瀬、飯塚君たちがリーダーとして實にフランクに迎え入れチームの中にとけこませてくれました。遠征、練習試合にそしてしめくくりの早稲田戦にそれぞれの新人が役割りを立派に果してくれました。戦後はじめて受験合宿を行なつた事の一応の成果はあつたと思っています。

こんな私達三十一年卒業の者にとって塾柔道部で一番弱いチームと云われながらもとにかく一応の成績で終れた事は喜びであると同時に誇りでもあります。

役員
長範督將事
幹監主師部
マネジヤー
幹事

朝堀高吉、金成川松、浩禧文、司微雄、
橋水本速正、忠輝、義久夫、一孝

一月十日より二月十三日まで二週間
於 綱町道場

本年度は例年より比較的温緩なる気候ではあったが百名近くの大量の皆勤賞受賞者を出し、塾柔道部史上近来稀に見る記録を樹立した。これは実に現在我が柔道部の氣力の上昇を具現しているものと思われる。連日十数名の先輩の参加も得、大学、高校、普通部、中等部の部員により道場は超満員、「綱町道場狭し」の感をいだかさ

れた。

精勤証受賞者

森岡謙二、奥山清明、大谷正賢、古森

特別敢闘賞受賞者
義久、細谷、伊藤照彦

九級進級月次試合

二月二十六日

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	鈴
永	永	永	林	吉	斎	椎	椎	椎	西	渡	渡	渡	渡	増	田
田	田	田	田	藤	名	名	名	名	島	辺	辺	辺	辺	木	正
武	晴	晴	一	郎	夫	彦	溫	一	徹	潔	正	男	紀	慶	征

引	体	巴	引	合	優	引	合	大	内	引	體	優	引	合	大	内	引
分	落	投	分	技	勢	分	技	勢	分	落	勢	分	落	勢	分	落	勢
鈴	宮	長	永	○	○	○	○	赤	椎	西	中	杉	鈴	○	渡	増	田
木	本	田	田	田	藤	村	村	司	名	島	川	浦	木	辺	田	正	正
良	定	治	武	晴	晴	篤	新	太	正	誠	正	正	征	慶	男	紀	一
三	義	良	郎	夫	彦	溫	三	徹	潔	輝	俊	慶	慶	男	紀	一	六

七級															八級						
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	四級	6	5	4	3	2	1	18	17
植	○	阿	阿	高	小	古	渡	松	松	飯	山	杉	田野	野	飯	高	高	○	鷺	鈴	
村	部	部	橋	林	森	森	辺	原	原	野	上	浦	中	沢	沢	山	井	井	谷	木	
健	次	郎	智	真	浩	義	紀	久	軍	紀	隆		直	俊	俊	康	光	良			
勢	卷	込	応	円	一	久	男		次	夫	三	潤	臣	雄	猛	夫	一	三			
優	大	外	返	引	引	巴	大	外	大	引	大	引	袈裟	引	内	引	大	足	引	合	
勢	外	卷	技	分	分	投	外	刈	外	刈	外	刈	固	分	股	分	刈	払	分	技	
ア	○	渡	阿	高	小	堀	○	渡	清	松	○	飯	川	○	関	田	永	野	飯	細	
部	村	辺	部	橋	林	森	辺	水	原	野	上		根	中	沢	沢	山	谷	井	谷	
俊	健	芳	智	真	浩	為	義	紀	久	軍	紀	隆	隆	直	利	俊	俊	康	光	一	
次	次	郎	和	応	円	一	義	久	男	徹	次	夫	三	範	臣	雄	雄	猛	旭	夫	

甲組															丙組					
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	18	17	16	15	14
姫	○	尾	太	太	太	渡	工	工	工	野	山	山	山	田	田	上	上	清	大	植
恒	貞					桂	雅			恵	幸	慎		昭	邦			惟	英	国
寿	貴					吉	和			史	郎	司	吉	彦	彦			道	範	之

支	釣	引	小	内	内	内	内	内	内	支	大	背	引	背	引	大	外	引	優	合
釣	込	足	刈	刈	刈	刈	刈	刈	刈	返	内	負	分	負	投	外	落	返	勢	技

本	賀	尾	吉	天	溝	太	○	渡	田	三	工	野	山	鎌	山	鎌	○	植	今	上
重	谷	上	沢	海	呂	田	辺	村	浦	恵	村	口	田	中	田			城	原	水
榮	恒	貞	識	功	木	桂	雅	泰	晋	史	幸	慎		昭	陸			剛	惟	英
一	夫	貴	敏	二	齊	吉	和	男	資	郎	司	吉		彦	郎			太	伝	道

卒業生送別試合										二級				三級			
先鋒	○五十嵐	○五十嵐	○五十嵐	奥加	奥海	原原	原内	切	切	5	4	3	2	1	○	海	堀押
大外刈	釣込腰	払腰	大外刈	田藤	山原	原芳	芳義	忠太郎	忠義	奥	海	堀押	渡大	西	堀	渡辺	谷田
辻吉	在	森	奥寺	矢海	浅	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
村田	藤田	岡田	藤山田	沢原	川内	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学生		謙清	順清	緒太郎	正義	太郎	幸	道雄	雄	○	○	○	○	○	○	○	○
二一介明										一	介	明	一	介	明	一	介
大外刈	釣込腰	払腰	大外刈	釣込腰	上四方	引分	背負返	背負卷込	背負投	崩裂	支釣込足	優勢	優勢	優勢	崩上四方	優勢	優勢
先鋒																	

○五十嵐 ○五十嵐

払腰 大外刈 大外刈 大外刈 大外刈 足払 合技 大外刈 大外刈 大外刈 鈎込腰 大内刈 合技 鈎込腰 鈎込腰 鈎込腰 払腰 鈎込腰 鈎込腰

田長閥 田永野飯細林高渡邊増鷺宮長杉赤岡西中鈴椎
中井根 中沢沢山谷 井(正) 田谷 木良 本田本浦司田島木名

横 横 横 横 横 横 横 横 横 横 ○ 宗 宗 宗 宗 桜 桜 秋 秋 秋 秋 長 五十
 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 宮 宮 宮 井 井 山 山 山 山 島 ○
 永 直 宏 則 慶
 一 行 昌 照 一

優 巴 大 外 鈞 体 優 大 外 合 小 内 引 大 外 移 跳 背 内 大 外 引 優 大
 勢 投 卷 达 足 落 勢 返 投 技 内 割 分 外 割 外 割 腰 腰 股 股 外 割 分 勢 大
 外 割

渡 松 清 飯 川 杉 尾 賀 太 吉 天 溝 渡 工 野 田 三 山 山 山 長
 過 (紀) 原 水 野 上 浦 上 谷 田 沢 海 木 辺 村 村 村 浦 口 中 中 濑

遠 遠 水 水 水 水 水 水 河 河 河 河 河 河 蟒 竹 竹 竹 竹 竹 竹 橫
 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 藤 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內
 千 三 謙 正
 春 郎 清 一 和

背 鈞 返 扌 橫 四 鈞 内 内 繼 四 扌 抱 優 内 引 上 四 引 優 体 内 返 技 裂 固
 負 投 达 腰 方 达 股 股 腰 落 勢 股 分 方 分 勢 落 股 技 負 投 橫 四 方

○ 海 堀 本 本 西 吉 大 渡 押 押 阿 清 今 植 大 植 阿 渡 高 小 堀 古
 原 重 重 田 崎 谷 辺 切 切 部 水 城 (剛) 熊 (健) 部 辺 橋 林 森 森

大将
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮 熊 熊 乾 乾 乾 乾 萩 萩 萩 萩 田 田 田 田 田 田 河 河 河 河
崎 崎 崎 崎 崎 崎 切 切 原 原 原 原 原 原 原 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 合 合
昭 靖 俊 正 昭 之
剛 男 夫 夫 投 横四方
横四方 内股 裂縫固 痛糞權 引分 裂縫固 扱腰 優勢 跳巻達 背負投 鈎込腰 鈎込腰 引分 巴投 横四方
引分 大内刈 横四方
引分

小塚 齊松 阿早 平 平 岩池 岩 川草 森 奥堀 加浅 寺奥 矢海 原
高田 地吉 部川 柳柳 嶺上 上 上 上 上 野岡 山内 藤川 田田 沢原

朝食 起床 日課
八時半 七時半

三月三十日～四月八日 於 日吉蝮谷道場

春季強化合宿(大学)

選手章受賞者
宮崎剛、熊切昭男、萩原正夫、乾俊夫、田坂昭
昭、横倉永一、河内清、河合靖之、蜷川謙一、遠藤千春、水藤三郎、竹内正和、宗宮直行、桜井宏昌、長島慶一、秋山則照、五十嵐康之、明神敏夫

体育会功劳賞選手章受賞者

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮
宮崎	崎
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮
宮崎	崎
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮
宮崎	崎
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮
宮崎	崎

優勢 支鈎込足
支鈎込足 大外刈
大外刈 支鈎込足
支鈎込足 引分
引分

藤 鈴 木 村 間
橋 近 斎 友 本 藤 木 田

午前の練習 十時半より十一時半

昼食 一時

午後の練習 四時より六時

夕食 六時半

門限 九時四十五分

就寝 十時

合宿参加者

四年 堀越、高松、吉川、田中、金成、友田、住谷、

鈴木正道

三年 長戸、飯塚、広瀬、久保、木村、鈴木(澄)、

坪田、藤間、岡田、永井、塚田、小高

二年 山際、鈴木(一)、頭山、小野、堀、工、天海、

伊東、野村、峰岸(弘)、峰岸(照)

一年 福田、小倉、稻田、伊藤、鈴木(正)、星野、

木下、島田、奥田、福原、竹内、鈴木(淳)、

岡本、城島、佐藤、福沢、森岡、竹下、松吉、

河端

正明が第二位となつた。
出場選手と成績

段外の部

鈴木英一(政三)

一回戦

○鈴木

不戦勝

片倉(東大)

二回戦

○鈴木

崩上四方

三回戦

○鈴木

森(国学院大)

一回戦

○森岡

優勢

○高田(日歯大)

二回戦

○森岡

崩上四方

向山(教育大)

三回戦

○森岡

釣込腰

中村(学蔵大)

四回戦

○森岡

優勢

溝口(東経大)

準決勝

○森岡

優勢

名原(専大)

本塾は段外の部で森岡謙一が第二位、参段の部で山際

東京・関東学生柔道段別選手権大会

五月八日(日)午前十時より於 講道館

鳥野(神奈川大)

決勝

森岡

「初段の部」

森下元雄(経一)

一回戦

○森下

二回戦

○森下

三回戦

○森下

四回戦

○森下

城島徹之祐(政一)

一回戦

○城島

二回戦

○城島

「武段の部」

福田靖与(経一)

一回戦

合技

○光山(早大)

小倉英夫(政一)

一回戦

小倉

「参段の部」

山際正明(経一)

一回戦

○山際

二回戦

○山際

三回戦

○山際

準決勝

○山際

決勝

○山際

長戸英夫(経三)

二回戦

○長戸

三回戦

○長戸

優勢	内股	優勢	優勢	優勢	跳腰	内股	大内刈	○佐々木(日体大)
○長田(明大)	上田(神奈川大)	○森島(拓大)	浅野(明大)	渡辺(中大)	田島(日大)	安達(農大)	○浅賀(埼玉大)	福田
大外巻込	内股	優勢	優勢	優勢	跳腰	内股	大内刈	○佐々木(日体大)
○長田(明大)	上田(神奈川大)	○森島(拓大)	浅野(明大)	渡辺(中大)	田島(日大)	安達(農大)	○浅賀(埼玉大)	福田
内股	優勢	優勢	優勢	優勢	跳腰	内股	大内刈	○佐々木(日体大)

第九回都下憲法記念柔道大会（中等部）

五月二十九日

第一回戦

本塾中等部 1 —— 4 両国中

先鋒 田 中 渡 辺 下 村 大内返 先鋒 ○ 高 橋

大内刈 ○ 橋 本 鉤込腰 ○ 小 糸

田 北 川 崩上四方大将 ○ 鈴 木

大将 ○ 白 川 大内刈 崩上四方大将

第三回関東高校柔道大会神奈川県予選

五月二十九日 於厚木高校体育馆

本塾高校 A チームが決勝戦までの四戦全戦を全員が一本勝で優勝、関東大会への出場を決定した。本塾 B チームは第三回戦で敗退した。

A チーム

第一回戦

慶應高校 5 —— 0 櫻丘高A

先鋒 ○ 阿 橋 本 部 大 助 大内刈 先鋒

○ 檜 ○ 渡 辺 本 部 大 助 小内刈 内 股

山 明 治 治 大 内 刈 渡 辺 大 平 中 村

第二回戦 慶應高校

大将 ○ 豊 永 5 —— 0 崩上四方先鋒

先鋒 ○ 阿 橋 本 渡 辺 山 大外刈

○ 檜 本 鉤込腰 ○ 檜 山 合 技

大将 ○ 豊 永 大外刈 逆十字絞大将

先鋒 ○ 阿 橋 本 渡 辺 伊藤

○ 檜 本 鉤込腰 ○ 檜 山 斎藤

第三回戦

慶應高校 5 —— 0 逗子開成B

先鋒 ○ 阿 橋 本 渡 辺 山 大内刈 先鋒

○ 檜 本 鉤込腰 ○ 檜 山 合 技

大将 ○ 豊 永 横四方 技

○ 檜 本 鉤込腰 ○ 檜 山 合 技

第四回戦（決勝） 慶應高校

大将 ○ 豊 永 5 —— 0 逗子開成B

先鋒 ○ 阿 橋 本 渡 辺 山 大内刈 先鋒

○ 檜 本 鉤込腰 ○ 檜 山 合 技

大将 ○ 豊 永 技

不戦勝 崩上四方 大将

甲 佐 小 岡 伊 泽 法政二高B

谷 藤 管

勝 崩上四方大将 井上

大将 ○ 豊 永 県立川崎高A

勝 崩上四方大将

Bチーム

第一回戦

第二回戦

不戦勝

慶應高校

先鋒 ○ 草野	○ 岩早	○ 平柳	○ 上邦	○ 上柳	○ 川上	○ 鉄生	○ 鉄治	計重
大將 ○ 佐々木	三郎							

5 — 0

合技

先鋒

優勢	優勢	優勢	優勢	送標紋	落体	袈裟固	抱鉤足	合技
引分	内股	背負投	大將	大將	大將	大將	大將	先鋒

1 — 3	日大高A							
坂井	坂井	坂井	坂井	坂井	坂井	坂井	坂井	坂井

高

本塾对東京大学対抗試合

六月三日 於 東大駒場道場

○ 島	○ 鈴	○ 木	○ 章	○ 英	○ 平	○ 勢	○ 本	○ 塾
田	田	柳	柳	英	一	平	佐々木	佐々木
坂	坂	岩	岩	平	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木
井	井	川	川	柳	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木

慶應高校								
先鋒 ○ 草野								
大將								
佐々木								

鈴久	星	福	福	福	福	城	城	城	城	友	斎	斎	柳	松	松	森	森	森	島
木保	野	野	田	田	田	島	島	島	島	田	藤	藤	藤	澤	吉	吉	吉	吉	下
正雅																			田
毅義	(2)	敬	(2)																
引	引	腕	がらみ	大	外	落	引	合	技	優	勢	内	股	崩	袈裟	優	勢	横	四方
分	分																	大	外

宝伊	伊	小	福	大	阿	古	古	是	長	中	会	根	○	中	会	根	○	船	北
伏藤	藤	粥	島	谷	南	田	田	田	松	浜	林	若	安	河	内	本	植	今	吉

大将 小倉 英夫(2) 以下八名を残して本塾の勝。

東京大会合宿(大学)

六月五日～十二日 於 綱町道場
六月十二日に行われる東京大会に備え合宿に入る。なお全国大会予選、関東大会等を控えた高校の主力メンバーも通いにて本合宿稽古に参加した。

第四回東京学生柔道優勝大会

(全日本学生柔道優勝大会東京予選)

六月十二日(日) 於 講道館

本塾は第一回戦一ツ橋大を4-1、第2回戦明治学院大を7-0で降したが第三回戦にて第一シード校明大に6-0で敗れた。敗者復活戦に於て対法大4-1勝、対教大6-1勝、対拓大2-4負の2勝1敗の成績で、全日本大会への東京代表出場が決定した。

試合成績
第一回戦 第二回戦 第三回戦
○ 橋大 対明治 対明大 対拓大 対法大 対教大
○ ○ ○ ○ ○ ○ ●
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
● ● ● ● ● × ● ●
● × ○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
堀越忠義(3) 飯塚国基(3) 吉川文雄(3)
(田中浩司(3) 高松静男(3) 山際正明(3)
長戸英夫(3) 斎藤口(3) 斎藤口(3)

選手名

第一回戦

A チーム
慶應高校 5 - 0 翠嵐高(B)
○ 橋先鋒(2) 阿部大助(2) 払釣込足 先鋒森口
○ 本光蔵(2) 斎藤

第五回神奈川県高等学校柔道大会
兼第四回全国高等学校柔道大会神奈川県予選
六月十九日(日) 於 大磯中学講堂

県下三十三校五十チームが参加、本塾高校Aチームは四年連続優勝をとげた。尚、本塾Bチームは準々決勝で日大高Aと対戦し敗れた。

第一回戦		第二回戦	
先鋒	○阿部	先鋒	○阿部
○橋本	○橋本	○橋本	○橋本
○渡辺	○渡辺	○渡辺	○渡辺
○慶応高校	○慶応高校	○慶応高校	○慶応高校
第四回戦		第三回戦	
大将	○豊永	大将	○豊永
○檜山	○檜山	○檜山	○檜山
○渡辺	○渡辺	○渡辺	○渡辺
○橋本	○橋本	○橋本	○橋本
○檜山	○檜山	○檜山	○檜山
○渡辺	○渡辺	○渡辺	○渡辺
○慶応高校	○慶応高校	○慶応高校	○慶応高校
5	—	5	—
内股	合技	内股	合技
大車	大車	大車	大車
先鋒	0	先鋒	0
千種	木下	高須	神奈川工
木下	口江	志島	坂野
種	高田	中田	斎藤
木下	口江	田辺	金子
種	高田	後藤	野々村
B	A	高田	小泉
		田辺	相原
		後藤	高
		高田	原
		田辺	厚
		後藤	味
		高田	林
		田辺	渡
		後藤	辺
		高田	明
		田辺	治
		後藤	(3)
		高田	(3)
		田辺	大外刈
		後藤	崩上四方
		高田	跳腰
		田辺	大將

	Bチーム	大将○豊永	崩上四方大将木村
第一回戦			
先鋒○呉平	○川草平	○川草平	○川草平
大将○岩上	慶応高校	慶応高校	慶応高校
第二回戦			
先鋒○呉平	慶応高校	慶応高校	慶応高校
大将○岩上	慶応高校	慶応高校	慶応高校
第三回戦			
先鋒○呉平	慶応高校	慶応高校	慶応高校
大将○岩上	慶応高校	慶応高校	慶応高校
横四方優勢	4 引分	5 合技	5 大外刈
渡辺	大外落先鋒	崩上四方	大外返
横四方	優勢	大刈	先鋒
渡辺	大中平	皆木	小川
横四方	横四方	木山本	石井
大将	大将	鈴田	木村
第四回戦			
先鋒○呉平	佐藤	今井	藤沢高A
大将○岩上	長谷川	新倉	藤沢高A
第五回戦			
先鋒○呉平	上	上	上
大将○岩上	柳	柳	柳
第六回戦			
先鋒○呉平	慶応高校	慶応高校	慶応高校
大将○岩上	慶応高校	慶応高校	慶応高校

本塾高校は準決勝で明治高と相対し、事実上の決勝戦にふさわしい大熱戦を繰り抜けたが2-1で惜敗し第三位となつた。なお本塾から阿部大助(2)、渡辺明治(3)が優秀選手に選ばれ表彰された。

第一試合(予選リーグC組)

先鋒○橋本光治(3)	慶応高校	2	—	1	葛飾農高(東京)
引分	横四方	大助(2)	弘鈎足先鋒○渡辺		
檜山	明治(3)	優勢			
○渡辺	本光	藏(2)			
横四方	治(3)				

第三回関東高等学校柔道大会

六月二十六日

於埼玉県大宮公園県営体育館

先鋒○戸田中	1	—	4	日大高A
大内返	優勢			
大外刈	先鋒	○戸田中		
内股	優勢	○野口		
大将○木村	大将○木村			

普通部対麻布中学対抗試合

六月二十日 於 綱町道場

岩本謙三、六人抜いて引分、中野根二郎一人抜き、玉田一郎二人抜き、鷺見久雄一人抜いて引分、関根隆範三人抜き、古森義久副将、大将を降して、大将植村以下十名を残して大勝した。又点取勝負も次の通り14対3で大勝した。

点取試合

普通部

先鋒 鈴木善雄

14 — 3

先鋒 ○高橋
袈裟固 坂巻

山	○柴	○杉	○川	○中	○岩	○稻	○鈴	○渡	玉	田	一	郎
田	田	浦	上	野	本	田	木	辺	木	木	基	正
精	紀	代	実	潤	三	陽	根	根	慶	慶	雄	男
一	佐	田	井	奥	三	三	二	一	一	一	正	郎
崩上四方大將												

優勢	優勢	小内刈	引分	大内刈	大内刈	大外刈	優勢	引分	袈裟固	袈裟固	袈裟固	袈裟固
----	----	-----	----	-----	-----	-----	----	----	-----	-----	-----	-----

河	綱	鈴	細	堤	高	木	木	木	木	木	木	木
村	島	木	野	田	藤	井	村	村	川	川	川	川

第三試合 (準々決勝)		慶應高校		慶應高校		慶應高校		慶應高校		慶應高校		慶應高校	
大將	○豊永	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本	○橋本
先鋒	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部	○阿部
準決勝	1	—	2	5	—	0	4	—	0	4	—	0	4
崩上四方大將				崩上四方先鋒			崩上四方			優勢	先鋒	竹本	本庄高(埼玉)
中里	○佐藤	田中	井口	飯塚	藤南	茂木	篠原	柳沢	栗原	金井	原	田庄	田庄
崩上四方大將				内股透	内股透	内股透	内股透	内股透	内股透	内股透	内股透	内股透	内股透
合技				合技	合技	合技	合技	合技	合技	合技	合技	合技	合技
引分				大將	大將	大將	大將	大將	大將	大將	大將	大將	大將
崩上四方大將				崩上四方	崩上四方	崩上四方	崩上四方	崩上四方	崩上四方	崩上四方	崩上四方	崩上四方	崩上四方
先鋒	○奥村	○奥村	○奥村	柳沢	柳沢	柳沢	柳沢	柳沢	柳沢	柳沢	柳沢	柳沢	柳沢
明治高(東京)				富岡高(群馬)			富岡高(群馬)			富岡高(群馬)		富岡高(群馬)	

みで一一本で敗れた。

第二回戦

○鶴見久雄	○野沢俊雄	○古森義久	○小林浩一	○植村健次郎	○阿部智応	○植村剛太郎	○大将
横四方	横四方	横四方	横四方	横四方	横四方	横四方	横四方
根隆範	根隆範	根隆範	根隆範	根隆範	根隆範	根隆範	根隆範
吉岡鉢	吉岡鉢	吉岡鉢	吉岡鉢	吉岡鉢	吉岡鉢	吉岡鉢	吉岡鉢
木本	木本	木本	木本	木本	木本	木本	木本

全日本大会合宿(大学)

六月二十七日(月)～七月二日(土)

於 綱町道場

七月三日に迫った全日本大会を前に選手を中心に関宿に入る。清水・朝飛両師範の指導の下、応援の先輩も多数来場し、又、東大の柔道部員も十名程連日稽古に参加した。

第四回全日本学生柔道優勝大会

七月三日 於 藏前国技館

全国八ブロック代表十七校が集つて開催され、本塾は第二回戦で福岡商大を五一〇で降したが、第三回戦(準々決勝)で明治大学と対戦、一番手山際が優勢勝したの

第三回戦(準々決勝)								本塾		福岡商大	
大将	大将	先鋒	大将	大将	先鋒	大将	大将	大外刈	内股	伊東初	大外刈
堀 飯 高 長 吉 田 中 海 塚 松 戸 川 正 浩 司	堀 飯 高 長 吉 田 中 海 塚 松 戸 川 正 浩 司	(3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)	忠 忠 静 静 英 文 正 浩 司	忠 忠 静 静 英 文 正 浩 司	(3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)	義 基 男 男 夫 男 雄 明 司	義 基 男 男 夫 男 雄 明 司	5	5	0	5
内 内 内 内 内 内 引 背 背 背 先鋒	内 内 内 内 内 内 引 背 背 背 先鋒	股 股 股 股 股 股 分 投 投 投 投	股 股 股 股 股 股 分 投 投 投 投	股 股 股 股 股 股 分 投 投 投 投	股 股 股 股 股 股 分 投 投 投 投	引 分 分 分 分 分 分 分 分	引 分 分 分 分 分 分 分 分	引 分 分 分 分 分 分 分 分	引 分 分 分 分 分 分 分 分	大外刈	内股
大将	大将	大将	大将	大将	大将	大将	大将	大将	大将	大将	大将
○石 ○中 ○德 ○神 ○比 ○山	○石 ○中 ○德 ○神 ○比 ○山	(5) (4) (4) (3) (3) (3)	野 永 永 永 田 嘉 田	野 永 永 永 田 嘉 田	(3) (3) (3) (3) (3) (3)	橋	柴 平 松 本 本 本	柴 平 松 本 本 本	柴 平 松 本 本 本	廣瀬彻	福岡商大

第四回全国高等学校柔道大会

八月六日・七日 於 大分県体育馆

本塾高校は準決勝にて久留米商高に0-3で敗れ第三位となつた。なお久留米商高は決勝にて鹿児島商高を3-1で破り優勝した。

第一回戦

慶応高校	慶応高校				庄内農高(山形)						
	先鋒	○渡辺明治(3)	○阿部大助(2)	○檜山治(3)	5	—	1	庄内農高(山形)			
大将	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)			
豊永	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)			
慶応高校	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)			
5	—	0	新潟商高(新潟)	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)

第二回戦

慶応高校	慶応高校				東海高(愛知)			
	先鋒	○渡辺明治(3)	○阿部大助(2)	○檜山治(3)	5	—	1	庄内農高(山形)
大将	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)
豊永	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)
慶応高校	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)

第三回戦

慶応高校	慶応高校				東海高(愛知)			
	先鋒	○渡辺明治(3)	○阿部大助(2)	○檜山治(3)	5	—	1	庄内農高(山形)
大将	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)
豊永	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)
慶応高校	○橋本光蔵(2)	○阿部大内刈	○檜山治(3)	内股先鋒安達	1	—	0	東海高(愛知)

第二回神奈川県中学校柔道大会(普通部)

八月二十一日 於 大磯中学講堂

本大会に出場の普通部は全試合無失点で優勝、昨年の

第一回大会に続き二連勝を飾った。

第一回戦	普通部	5	—	0	玉川中学
第二回戦	普通部	4	—	0	鎌倉附属中
第三回戦	普通部	4	—	0	御成中学
決勝戦	普通部	5	—	0	大磯中学

次に本大会優勝までの三十年度普通部柔道部の活動を普通部会誌柔道部報告から抄録する。

例年通り一月の中旬から寒稽古を皮切りに一九五五年の柔道部生活が始まる。寒稽古で普通部生の活躍は目覚ましく、精勤賞一人を始め、皆勤賞数十名を出した。三月に校内大会を催し、Aで植村(健)、Bで野地、Cで奥野が優勝した。

四月に入つて卒業生多数を出したが、神奈川県大会のメンバーには影響しない。新監督友田先輩のもとに練習の体勢に入り、まず小手始めとして麻布中に対戦を申し入れ、六月に綱町に於て十五人の勝抜き点取りを行い、圧倒的勝利を収める。

七月の夏休みに入り、第一次合宿を綱町で行い、八月に入り本格的な第二次合宿を山中山荘で行つた。二年生諸君の参加者の少ないので来年が心配である。二次を終り、中旬に第三次合宿はコンディション調整の為綱町で

行う。

下旬に大磯で行われた第二回神奈川県下柔道大会では練習量と技術に於て数段すぐれている我々が問題ならず連続優勝する。

戦評の一つを拾うと……、

「両軍の大将は互に礼を終り、右自然に組んで正面よりまわると、大将植村(剛)の宝刀右大外刈りが飛び、相手は宙を舞う。これわずか三十秒たらずである。」

北海道遠征(大学)

八月二十六日～九月三日

今年は夏季合宿を中止して、昨年の信越・東北遠征に引続く北海道遠征を行つた。清水師範引率の下に一行三十名、全函館、全小樽、全札幌、全旭川、全苫小牧、室蘭柔道連盟と対戦し、札幌に於て食中毒のため札幌、旭川では振わなかつたが全員よく奮闘し特に山際、木下、城島、飯塚、小倉、島田等が活躍し、五勝一敗の成績を収め、九月三日洞爺湖で解散した。

試合結果

対全函館戦 八月二十六日

於 函館有川小学校講堂

本塾	15	—	11	全函館	本塾不戰四人勝
対全小樽戰	八月二十七日				
本塾	22	—	10	小樽市沢川道場	水井充彦(経一)(初)
対全札幌戰	八月二十八日				
本塾	15	—	14	札幌市民体育館	城島徳之祐(政一)(2)
対全旭川戰	八月三十日				
本塾	14	—	16	旭川警察道場	福田靖与(経一)(2)
対全苦小牧戰	八月三十一日				
本塾	14	—	16	全旭川	木下健(法一)(2)
対室蘭柔道連盟戰	九月一日				
本塾	16	—	11	王子製紙柔道場	十勝三勝
於 富士製鐵柔道場					
本塾	16	—	11	全苦小牧	木下照彦(政一)(2)
対室蘭柔道連盟	九月一日				
本塾	14	—	8	本塾不戰六人勝	正道(経四)(2)
先鋒 島田 章平(経一)(初)					
藤間哲也(経三)(初)					
松吉賢三(政一)(初)					
森下之雄(経一)(初)					
藤間哲也(経三)(初)					
一勝					
遠征參加選手及びその勝数					
本塾	14	—	8	室蘭柔道連盟	十勝二勝
本塾	14	—	8	本塾不戰六人勝	木英一(法三)(初)
先鋒 島田 章平(経一)(初)					
藤間哲也(経三)(初)					
松吉賢三(政一)(初)					
森下之雄(経一)(初)					
藤間哲也(経三)(初)					
一勝					

鈴山吉	田竹	稻飯	小久	金久	廣岡	竹伊	星木	城鈴	木水
木際川	中内	田塚	木倉	成保	瀬東	下野	木伊	下島	井充彦(経一)(初)
一 正文	浩右	國英	禧雅	徵久	本信	弘也	義弘	藤正	徳之祐(政一)(2)
男(政一)(3)	司(経四)(3)	司(経四)(3)	司(法四)(3)	誠(法三)(2)	義(経三)(2)	也(政三)(2)	義(法二)(2)	健(法一)(2)	徳之祐(政一)(2)
男(政一)(3)	司(経四)(3)	司(経四)(3)	司(法四)(3)	誠(法三)(2)	義(経三)(2)	也(政三)(2)	義(法二)(2)	健(法一)(2)	徳之祐(政一)(2)
一勝	不戦三	不戦三	不戦三	一勝	三勝	二勝	二勝	二勝	十勝二勝
一勝不戦三	二勝不戦三	二勝不戦三	二勝不戦三	一勝	三勝	二勝	二勝	二勝	十勝二勝
一勝不戦三	十三勝不戦二	十三勝不戦二	十三勝不戦二	一勝	三勝	二勝	二勝	二勝	十勝二勝

勝抜試合		日本	日	本	4	—	2	米	国
先鋒	岡田(拓大)	○久村(中大)	○大川(早大)	○大将	○渡辺(中大)	○長戸英夫(経三)	○大将	○川畠(拓大)	○大将
岡田(拓大)	○岡田(拓大)								
本勃(一橋大)	○本勃(一橋大)								
上(2)(中大)	○上(2)(中大)								
引分	○引分								
大将	○大将								

柔道が国際スポーツとして発展するに伴い春には学柔連選抜軍がアメリカに派遣され、引続き秋にはアメリカから日本へと学生柔道の親善試合が行われた。この試合には本塾から、長戸英夫、福田靖与、森下之雄の三選手が出場した。

点取試合

九月十七日	於講道館	日米学生柔道大会(東京大会)
九月十七日	於講道館	日米学生柔道大会(東京大会)

先鋒	森川(一橋大)	小川(一橋大)	大川(一橋大)	植(東大)	横四方	優勢	横四方	引分	内股	大内刈	先鋒
○森星(拓大)	○星永(拓大)	○甲永(拓大)	○甲星(拓大)	○メアリー(2)							
○島野(拓大)	○野島(教大)	○甲野(拓大)	○メアリー(2)								
○内股(片羽締)	○跳腰(羽締)	○引分(羽締)	○引分(羽締)	○内股(羽締)	○メアリー(2)						
○アダムス(2)	○ラング(2)	○モリヤス(2)	○モリヤス(2)	○バーズリー(2)	○メアリー(2)						
○アバキヤン(2)	○ターネー(2)	○シユワルツ(2)	○シユワルツ(2)	○ハリス(2)	○メアリー(2)						
○アダムス(2)	○アダムス(2)	○アダムス(2)	○アダムス(2)	○アバキヤン(2)	○アバキヤン(2)	○シユワルツ(2)	○シユワルツ(2)	○アバキヤン(2)	○アバキヤン(2)	○シユワルツ(2)	○メアリー(2)

審査										優引内	
(普通部)					(普通部・中等部)					勢分	
2 1		2 1		8 7 6 5 4 3 2 1					大將		
中山	宇津木	池	上	貝	高	柄	児	齋	福	○	森
野崎	宇津木	田	田	ノ木	橋	沢	玉	藤	沢	○	森
惠健		東		祥	克	義	良			○	森
雅次				彦	純	信	夫	彦	継	○	森
										○	森
○伊藤(3)(東大) (二人残して日本の勝)											
進級月次試合										優引内	
十月十五日											
仙中	石安	松	池	上	貝	高	柄	児	藤	ムロサキ(3)	ヤマダ(3)
石野	塚西	野	田	田	ノ木	橋	沢	玉	井	ラベル(3)	オオサコ(4)
通恵	彰康	孝	東		祥	克	義	豪			
泰雅	克真	平	彦	純	信	夫	彦	継	人		

九

8 7 6 5 4 3 2 1 級 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3
○
山野柴柴金福閔野 福西藤伊長佐館作金駒川坂西仙
田口田田子沢根村 沢沢井藤田伯野田沢崎上本沢石
精和 紀代美 紀左介 内修徳 史豪洋治 郎人平良誠 光勉武己彦崇郎泰
一志

體大引引引引合優
落外刈分分分分技勢

21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 級 9 ○
○ 鷺吉熱熱熱熱熱赤赤宮宮鷺永永永永永永銀銀
○ 野

見田海海海海司司本本谷田田田田田川川村
村

久晴修新定光武晃治
一太郎義一郎光

雄彦一

大裂引一本優橫優釣合縱上體引大內優內裂優引分優勢
外刈分勢四方勢達腰技四方四四方四返股股股股
固固固固固固固固固固固固固固固固固固固固

○ 杉鷺吉川梅沢椎熱斎○ 赤西宮鷺高細鈴中鈴羽永羽
○ 吉川
浦見田井田田名海藤司島本谷井谷木川木根田根
誠久晴良英修新定光康正正良伸武伸威男
俊雄彦紀弘郎次徹一溫郎潔義一夫旭慶輝三行郎行

5 4 3 2 1 組 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 級 24 23 22
○ 長渡渡沢沢 沢飯長長閑渡川杉野野野渡勝鷺
○ 鶯
瀬辺辺井井 井野戸戸根辺上浦沢沢沢辺本見見
紀照正正紀和隆紀隆俊正杉
夫男明明夫夫範久男三潤雄男
○ 雄

引跳合合優背払引裂大外引引引引大上横合引返
分腰技技勢負腰分裂固外刈分分分落四方技分技

門長井渡田清沢飯清松長閑渡川杉田飯野○
林勝中
瀬出辺中水井野水原戸根辺上浦中山沢本野
松紀照正紀真軍和隆紀隆直俊俊政杉根
平夫稔男稔徹明夫男次夫範久男三潤臣猛雄宏雄郎

四

乙

五

2	1	級	4	3	2	1	組	5	4	3	2	1	級	13	12	11	10	9	8	7	6	
阿	山		山	賀	賀	賀		小	永	古	古	足		足	赤	仲	仲	仲	櫛	櫛	薄	門
部	口		口	谷	谷	谷		林	岡	森	森	立		立	穗	村	村	原	原	原	松	
智	慎		慎	恒	浩	秀		義	龍	太	郎		龍	正	禎	禎	孝	信				
応	吉		吉	夫	一	昭		久				太	郎	守	夫	夫	至	興	平			

引	製	織	固	引	絞	引	分	小	外	刈	大	内	刈	優	大	外	落	引	横	四方	背	負	投	
分					技			外	刈		内	刈		勢	外	落		分						

○	大	阿	津	山	山	渡	○	清	小	永	渡	○		○	足	中	赤	宇	津	田	○	櫛	薄
○	熊	部	限	口	中	(靖)		水	林	岡	辺	森			西	立	穗	木	村	村	原		
○	国	智	良	慎	昭			英	浩	秀	芳	義			道	龍	正	禎	泰	孝	信		
○	之	応	平	吉	彦			範	一	昭	和	久			明	太	郎	守	繁	夫	男	至	興

三 甲

日	課	6	5	4	3	2	1	級	5	4	3	2	1	組	4	3	大					
習、	六時起床、	河	植	渡	植	石			後	後	西	太	大		○	大	熊					
七時夕食、	七時十五分体操、	端	村	辺	村	原			藤	藤	田	田	熊		○	熊	國					
十時消燈。		孝	剛	雅	健	康			一	太	悅	桂	國		○	國	之					
		充	太	次	次	弘			太	康	吉	吉	之									
									引	引	引	引	引		小	內	刈	背	負	返	投	分

第一次早慶戦合宿(大学)

十月三十日～十一月六日

於 綱町道場
八時食事、四時練

吉	河	植	磯	渡	○	植		石	本	○	後	西	太	工	今
崎	端	村	沼	辺		村		原	重	藤	田	田		惠	城
公	孝	剛	輝	雅		健		康	榮	一	桂	桂		太	
亮	充	太	男	和		次		弘	一	太	康	吉		郎	伝

秋季大会

十一月三日（木）十時より

午前十時より午後二時半迄、少年部・段外

者紅白試合

午後三時より普通部・中等部戦

午後四時より七時まで、有段者紅白試合
七時より八時半まで、活殺法研究会（例年通り）

普通部中等部戦

普通部

先鋒 猪原満也 引分 先鋒

○柴田紀代実 崩袈裟

○鶴見久雄 崩袈裟

○鶴見根一郎 合技

○鶴見修晃 合技

○鶴見海海 合技

○鶴見銀川 合技

○鶴見中野 合技

○鶴見田根一郎 合技

○鶴見紀久男 合技

大外刈
技

○鶴見勝田祥 合技

三

一義弘

進徹坦

中等部

中野北

○佐藤惟名

○佐藤佐佐

○佐藤佐佐

○佐藤佐佐

○佐藤佐佐

○佐藤佐佐

○佐藤佐佐

○佐藤佐佐

○佐藤佐佐

大外刈
技

○佐藤佐佐

三

一義弘

大将 植村 阿部智應 大将 植村 阿部智應

○川上隆三 潤

○古森義久

○佐藤浩一

○佐藤浩一

○佐藤浩一

○佐藤浩一

○佐藤浩一

○佐藤浩一

○佐藤浩一

大外刈
技

○佐藤浩一

三

一義弘

普通部はこれで戦後五回連続優勝を遂げた。

第七回全日本東西学生柔道選手権大会 全日本学生柔道選手権大会

十一月十二日（土）十三日（日）

於 大阪府立体育会館

本塾より長戸英夫三段、山際正明三段、吉川文雄三段

が選手に選ばれ出場した。

東西対抗では東軍十三番に出場した山際正明三段は西軍九番手松村芳美三段（立命大）と引分、十五番に出場

○下川	飯永	勝本
○中田	山村	杉俊郎
○直臣	直臣	杉裕
引分	引分	引分
崩上四方	崩上四方	内足払
○大将白川	○大将白川	合技
○根潤	根潤	大内返
○根隆範	根隆範	小内刈
○根野	根野	引分
○根澤俊雄	○根澤俊雄	内足払

した長戸英夫三段は西軍十一番手川波浩三段（天理大）と引分けた。

選手権大会成績は次の通り。

第一回戦

長 戸 英 夫(3)	優 勢	○水 内(立命大)(3)
○吉 川 文 雄(3)	優 勢	○山 際 正 明(3)
○山 際 正 明(3)	優 勢	岩 竹(愛知大)(3)
山 際(3)	上四方	○菱 山(関大)(3)
	優 勢	○石 井(早大)(4)

第二次早慶戦合宿（大学）

十一月十七日～二十七日 於 綱町道場

早慶戦に備え、本年度最後の合宿を行う。合宿第一日目には神奈川警察と二十五人紅白試合を行い、選手善戦、大将同士の決戦となり大将山際、私山際が腰に敵将を討取り、本塾に凱歌があがつた。

また合宿中多数の先輩が激励に見えた他、産業別柔道

大会に出場の東レ等の選手が来場する等にぎわいを見せ、清水師範の「我々二十五名の選手の背後には三百名の部員あり、後押しあり。選手は部員を代表して立派な

試合を行う事。それは即ち勝つ事である。」の言葉に全軍元気一杯、勝たんかの意気に燃えている。

次はその合宿日誌である。

第一日十一月十八日 金曜日 快晴

起床七時半

寒風をついての朝のトレーニングは、本年度最後の合宿にふさわしく、いやがうえにも吾々の意氣を燃えたたせた。対神奈川警察との試合のため、一時、横浜駅に集合、一同揃って試合場に行く。試合は二十五人の紅白勝負で、選手善戦、大将同士の決戦となり大将山際、私山際が腰を射取り、吾が軍に凱歌があがつた。全試合を通していわれることは、勝負にとらわれない正々堂々たる立派な勝ぶりだったと思う。伊藤照彦の得意技は特筆すべきものがあった。九時より道場で、合宿部員一同、キックテンを囲み、円陣を作り、本日の試合に就いての批判検討会を行った。結論として、今後の練習に重点強調すべき点は、

○弱気、不屈の気力。気力充実の養成。

○自己の欠点（左技の研究）を是正、研究。
今日の試合にしても、勝負という試合に重点をおいたら、難なく大勝したであろう。十時半消燈。

第一日十一月十九日 土曜日 晴

午後一時より高校生が練習、大学生は四時より始める事になっていたが、それ以前に高校生と共に、三、四名が試合練習を行つた。愈々、K.W戦を一周間後に向え、今日両軍のメンバーの発表が行われた。Wは四段六人、参段十八人、式段六人。下位陣は全くわからぬ新人。今日は多数の先輩がお見えになつた。中野先生を始め、神谷、笛間、大館、小坂、成毛、河内の各先輩。全員元気で、二時間の練習(乱取主体)終り。夕食後、三田祭のダンスパーティーが山食であり、部員諸君夕食後の一時を過した。消燈は十時。

第三日十一月二十日 日曜日 晴

田中浩司記

谷、笛間、大館、小坂、成毛、河内の各先輩。

全員元気で、二時間の練習(乱取主体)終り。夕食後、三田祭のダンスパーティーが山食であり、部員諸君夕食後の一時

を過した。消燈は十時。

第四日十一月二十一日 月曜日 雨

斎藤晴夫記

もない。要は一人一人の練習による実力だ」との御教示があつた。三日間続いた三田祭も今日で終つた。祭りが賑やかだったせいか皆少々腰がういた感じだ。明日から一週間、皆体力をセーブし負傷のない様注意して、最後の努力をしようと思う。本日の門限は九時半、消燈は十時。皆疲れが激しくなつて來たので、睡眠を充分にとる。為九時半に消燈してはと云う意見が夕食の時でていた。

朝七時半起床

皆本当にぐっすりねむつていて何だか起すのが可哀相だった。日曜日なので、練習は十時から十二時迄、午前中にやつてしまい、午後は夕食まで自由時間とした。今日の練習は主として技の研究を行つた。寝技について先生から横四方の返し方の説明があつたが、その時横四方の返し方はあく迄正式のやり方でやるべきであり「絶対に押え込める抑え方もなければ絶対に逃げ切れる逃げ方

ではない。要は一人一人の練習による実力だ」との御教示があつた。三日間続いた三田祭も今日で終つた。祭りが賑やかだったせいか皆少々腰がういた感じだ。明日から一週間、皆体力をセーブし負傷のない様注意して、最後の努力をしようと思う。本日の門限は九時半、消燈は十時。皆疲れが激しくなつて來たので、睡眠を充分にとる。為九時半に消燈してはと云う意見が夕食の時でていた。

て、ダンスパーティもなく不時着せず直ぐ道場へ帰る者割合多し。門限九時半、消燈十時。

近田富夫記

第五日十一月二十二日 火曜日 晴

昨日にうつて変つて快晴である。七時半起床したが、グランドがぬかつているとの理由で又三十分起床を延す様にしたが、あまり天気が良いので、やはり外に出て体操をする事にした。今日は昨日と異り不平たらである。八時十五分朝食。今日、纖維会社の柔道部の方が、明二十三日の産業別大会に備え当道場で稽古された。東洋レーヨン勤務の熊切先輩も見えられた。四時練習開始。早慶戦の記事取材のため、報知新聞社の方が来られ、練習前写真を取った。今日の練習方法はぶつかり、寝技、乱取で平常通りであった。練習前に熊切さんと東洋レーヨンの柔道部の方が、我々の練習を見に来られた。中野先生と笛間先輩も見えられた。七時夕食、清水先生は今晚自宅に帰られた。堀越さんが、成毛先輩と約束したのを忘れ、消燈前にあわてて出かけた。十時消燈。

高松静男記

第七日十一月二十四日 木曜日 快晴

起床八時。通算十時間の睡眠。それでも、イビキ、歯ギシリ等でねむれなかつたと苦言をもらす者もボツボツ

いた。秋日和の絶好のグランドコンディションだったが、今日より朝のトレーニングを中断、体力を貯えることにした。四時からの練習は全く実戦向きのもの、相手から頑張って貰つての得意技に入る研究、片襟をもつての攻防、巴投げ、隅返し、寝技の研究等。成毛兄、萩原両先輩、稽古着を着吾々の練習の相手となつてくださつた。先輩では両先輩の他、石渡さん、水谷さん等がお見えになつた。停電のため夕食が少し遅れた。早慶戦オーダー編成のため、清水、朝飛両師範、水谷、成毛兄先輩等、体育会々議室へ出かけられた。夜の道場は何時もようり早く床に就く者も多くなつて來た様だ。本日、卒業生一同、ユニホームを着、記念写真をとつた。消燈十時。

吉川文雄記

第八日十一月二十五日 金曜日 晴

今日はオーダーの交換が十時よりあり。早稲田石井選手の欠場及び二段陣の新人の出場等あつて、午後四時から練習はもっぱら相手の研究と得意技の研究を行つた。練習時間約一時間。笛間先輩、笠原先輩、水谷先輩、成毛先輩がお見えになつた。我軍は、先鋒城島、次鋒鈴木、伊東、森下の順、大将山際、以上精銳二十五名。必ずや早稲田を打倒せんものと全軍元気一杯。二日後の早

慶戦を前にして、勝たんかなの意氣に燃えている。清水師範曰く「我々二十五名の選手の背後には三百名の部員あり、後押しもあり。選手は部員を代表して立派な試合を行ふ事。それは即ち勝つ事である」と。夕食は先輩の御好意によつてスキ焼きと、中野栄三郎先輩に戴いた卵を御馳走になつた。

田中浩司記

第九日十一月二十六日 土曜日 快晴

朝八時起床

朝食の後十一時より三十分軽い練習をやり、明日に備える。練習が終つて、先生、成毛先輩から試合についての注意があり、一に氣力、二に氣力と全力を尽して敵にあたる様にと繰り返し繰り返し励ましのお言葉があつた。午後一時岸体育館に於て両軍の交歓会が行われた。

席上堀越主将から必ず本年も優勝してみせますとの挨拶があり、塾の選手の意気を大いに示した。二時少し前、同体育館前で解散。夕食七時。夕食後皆道場へ帰つて明日に備えて体を休める。合宿外の部員は七時から講道館へ行き明日の準備をしている。塙田と木村が、合宿中の部員の中からその監督を行つてゐる。本日は阿部大六、吉川、笹間先輩がお見えになつた。又羽鳥先輩がわざわざミカンのお見舞を持って来て下さつた。又体育会から

もミカン二箱お見舞を頂く。兎に角、早慶戦合宿の最後の夜。皆ぐつすりねむり、必勝の信念を持つて明日にのぞめる様祈つてやまない。消燈九時半。齊藤晴夫記

第十日十一月二十七日 日曜日 曇り後雨
いよいよ早慶戦の当日である。部員平靜にこの日をむかえている様である。先輩の御好意により柔道部としてはおそらく初めての試みであろうカンフルとビタミンの注射をして試合に出かける。試みの戦績、戦評等は後に別に書かれるものと思うが、今日の試合は選手全員、実際によくがんばつてくれたたまものと心から感謝する。八時、道場で先生からのお話の後、合宿を解散する。先輩の皆さんも喜んでくれた。

近田富夫記

本塾対神奈川警察対抗試合

十一月十八日 於 神奈川警察道場

先鋒	島田	章平	引分	千葉	神奈川警察
○松	森	下之雄	巴投	○那須	
吉	賢三		優勢		
松			優勢		
吉			○那須		
○林	体落			○那須	
				泉	

○ 鈴成久 飯田福 ○ 田 田 小 小 鈴岡広伊 木伊伊伊 城小
 木毛保塚成田田 中中倉木本瀬東東下藤藤藤島島野
 一韶雅國禱靖浩 英正信久弘 照徹也祐之也
 男夫義基徵与司 夫道義也人健 彦也

優足引引上四方引継四方崩釣腰背投引分分内股優勢合技大外返大外刈引分
 勢 扱 分 分 分 分 崩上四方 分 分 分 分 外返 外刈 分

○ 浜遠巣坂佐佐前前 ○ 謝訪間 ○ 佐々木新古古高阿阿 関林
 藤谷谷本藤藤田田 部田屋屋屋木部木部

第一回戦
 「一年Aチーム」

慶應高校
 ○ 永岡秀昭
 ○ 林政国
 大熊宏之
 第一回戦
 1 |
 2 |
 2 |
 0 |
 引分 優勢 大外刈
 大外落 大将

神奈川県高等学校学年別柔道大会
 本塾は三年Aチームが優勝、Bチーム第二位、一年B
 チームが第三位となつた。
 一月二十三日於 横浜南校体育馆

大将 ○ 山竹 長稻 戸堀 越吉 高川文雄
 際内 田英 明宣 設 越忠義
 正右 設 越忠義
 明宣 設 越忠義
 大將 ○ 山竹 長稻 戸堀 越吉 高川文雄
 大外落 大将
 引分 崩上四方 大外刈 崩上四方
 引分 崩上四方 大外刈 崩上四方
 萩吉村井金山根浜
 原山田上子子子澤本

第一回戦		第二回戦		第三回戦		第四回戦（準決勝）		「一年Bチーム」	
○林	大熊	○永岡	大岡	○柳原	慶応高校	○水戸原	慶応高校	○水戸原	慶応高校
神原	慶応高校	大外刈	大外刈	至	慶応高校	和夫	清	長戸原	清
0	3	3	3	0	3	0	3	0	0
合計	3	0	0	0	0	0	0	0	0
○岩本	鎌倉学園高	葉山	増山	山口	山	大沢	玉児	金子	高橋南
○伊藤	坂根	柴田	根	高	高	高	高	高	高

第一回戦				第二回戦				第三回戦							
慶應高校				今城城				清水桂吉				太田英範			
〔三年Aチーム〕				〔三年Bチーム〕				〔三年Cチーム〕				〔三年Dチーム〕			
○檜山	○渡辺	○永井	○豊明	○檜山	○渡辺	○永井	○豊明	○檜山	○渡辺	○永井	○豊明	○檜山	○渡辺	○永井	○檜山
慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校
3 合技	3 合技	3 合技	3 合技	3 脇固	3 大外刈	3 釣込腰	3 逆十字	1 優勢	1 引分	1 優勢	1 優勢	1 大車	1 大内刈	1 優勢	1 優勢
0 釣込腰	0 腰固	0 大外刈	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	1 大内刈	1 逆十字	1 優勢	1 優勢	1 大内刈	1 大内刈	1 大内刈	1 大内刈
高橋	矢島	斎藤	開成	山奥	石原	関東学院	高	○吉田	○吉田	○吉田	○吉田	南高A	南高A	南高A	南高A

第一回戦				第二回戦				第三回戦				第四回戦			
〔三年Bチーム〕				〔三年Cチーム〕				〔三年Dチーム〕				〔四年Aチーム〕			
○檜山	○渡辺	○永井	○豊明	○檜山	○渡辺	○永井	○豊明	○檜山	○渡辺	○永井	○豊明	○檜山	○渡辺	○永井	○檜山
慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校
1 引分	1 引分	1 優勢	1 優勢	2 跳腰	2 合技	2 引分	2 逆十字	3 跳腰	3 内股	3 逆十字	3 絞	3 上四方	3 合技	3 大内刈	3 大内刈
0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固	0 腰固
橋本	阿部	平柳	慶應高校B	河西	金井	後藤	横浜高	畠山	内藤	大島	桜丘高	泰野高	大津田	相原高	大津田

							○平柳邦生	○阿部大助	○橋本光藏	○平柳邦生	○阿部大助	○橋本光藏	慶應高校
							内股	大外刈	合技	内股	大外刈	合技	
							3	0	0	3	0	0	桜ヶ丘高
							——	——	——	——	——	——	
第一回戦							2	0	0	2	0	0	高木渡辺
第二回戦							——	——	——	——	——	——	大平高
第三回戦							1	1	1	1	1	1	南島村
第四回戦							引分	大内刈	体落	引分	大内刈	合技	菅原高
代表戦	○阿部	慶應高校	○阿部	橋本	慶應高校	○阿部	橋本	平柳	平柳	平柳	阿部	橋本	慶應高校
○阿部	平柳	○阿部	橋本	○阿部	橋本	○阿部	橋本	平柳	平柳	平柳	阿部	橋本	慶應高校
代表戦	引分	内股返	1	大内刈	腕ガラミ	1	合技	引分	引分	1	合技	大内刈	体落
○阿部	大外刈	○阿部	大外刈	○阿部	大外刈	○阿部	大外刈	○阿部	大外刈	○阿部	大外刈	○阿部	大外刈
○阿部	猪高	○小泉	横須賀高A	金子	○金子	金子	開成高	杉山	和田	菅原高	今城	南島村	渡辺高
○阿部	高田	熊田											

○阿部 優勢 猪熊

決勝戦
本塾Aに1-0で敗れ三年Bチームは準優勝となつた。

第七回早慶対抗柔道戦

十一月二十七日於 講道館

四段一名、三段、二段各十二名の塾は、この内二十名を塾の高校出身でかためて いる。四段六名、三段十四名、二段六名の早大の方が段数からも当然有利と思われていたが塾の二段、三段陣には昨年の関東高校柔道大会で優勝、全国高校柔道大会で第二位を占めた塾高出身選手が入っているし、夏の北海道遠征以来三度の合宿で先輩の熱心な指導を受け勝負度胸も技も充実しているので、緒戦から積極的に攻め、岡本、伊藤の活躍で有利に戦を進めた。早大の平本と佐藤が抜き返せば、福田が上方に佐藤を破って次郎丸と対戦したが、巴が決らなかつた僅かな隙に逆十字にとられて再びタイに持ち込まれた。場外で早大の次郎丸に押されて足を痛めた高松は、塾側の抗議に拘らず負傷棄権と判定され、また腰山に飯塚が場外レスレのところに打ち取られて、二人劣勢の

まま大将山際の出場となつた。山際は前日四段に昇段したばかりだが良く落ち着いて北崎を体落に、続く副将藤田に返し技に技有をとられながらも機を見て放つた内股に見事藤田を打ちとつて大将同士の対戦にもちこんだ。既に二十分以上の試合をつづけている山際はかなり疲労の色が濃かつたが良く動いて川畠の技をはずして引分に持つて行つた。これで対戦成績は一勝五敗一分となつた。

当時の新聞は奮戦の模様を次の様に伝えている。

(説売新聞)「慶応、早大と引分け」、「ふがいなかつた早大」(中略)実力的には早大がはるかにまさつていた。引分となつたのは慶応のホープ山際が大奮闘したからだが、いかに山際ががんばつても早大の中堅が普通に実力を發揮していたら早大は少なくとも不戦二人は残しだだろ。早大は石井四段が負傷して欠場したのがたつたが、それでも抜き役と見られた小林、伊藤両三段が氣のゆるみからブレークしたのは引分のもとである。(日刊スポーツ)「慶、引分けに持込む」、「大将山際が健闘」(中略)試合は最初から早慶戦らしいエキサイトしたゲームを展開、劣勢を予想された慶大大将山際は早大の北崎を開始早々に体落して破り、副将藤田にも最初内股を

返され技ありを取られたが積極的に攻め内股にほおり、

大将戦に勝負を持込んだが疲労の色濃く、早大川畠の大外刈の攻撃を場外に逃げ引分けに持ち込む善戦だった。早大は中盤平本、佐藤、次郎丸らが活躍したが、期待の小林が簡単に伊藤に敗れ、また三十二貫の三宅も長戸を終始攻めながら極め手なく引分に終つたのは痛かった。

審判員 清水正一 山本秀雄 羽鳥輝久 大沢慶巳
試合経過

本塾

先鋒 城島徹之祐(2)

引分

鈴木正毅(2)

引分

伊東弘人(2)

引分

森下之雄(2)

引分

竹下武比古(2)

引分

松吉賢三(2)

引分

島下武比古(2)

引分

木下信義(2)

引分

岡本義彦(2)

引分

藤田平治(3)

引分

林信脩(3)

引分

宮野拓(3)

引分

崎脩治(3)

引分

山野守(2)

引分

高峰児(2)

引分

岩吉義高(2)

引分

田藤井義児(2)

引分

小野塚吉武(2)

引分

伊藤小野塚吉武(2)

岩澤藤井義児(2)

林高峰児(2)

宮崎義高(2)

崎児(2)

庄悦治(3)

昭肇(3)

秋期医・歯・薬柔道リーグ戦(医学部)

十一月二十七日

於 教育大学体育学部道場
参加校、本塾医学部、日大獣医学科、日本医科大学、

東京薬科大、昭和薬科大

順位、第一位 東大、第二位 東薬大、第三位 廣大医
学部、第四位 昭薬大、第五位 日医大

試合内容

先鋒				先鋒				本塾			
山根	小林	佐藤	岩田	月毛	山村	佐根	小武海	川藤	北崎	有城	三国
小武海	佐藤	岩田	本	(3)	(2)	村	林	佐藤	小武海	野山	田山
藤	藤	田	大	大	大	根	根	佐藤	佐藤	野	田
1	2		先鋒	大将		優勢	合技	総四分一	腰内股	外返	引分
上四方	背負投	引分	引分								
○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○
加藤	細柳	池上	小切	花形	東本	岩橋	高子	金崎	宮島	手野	日比
切	柳	切	切	切	(3)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	大

優秀選手	大将	○○	稻吉	長堀	竹飯	久高	小高	福田	鈴田	久	
早大	山	山	山	山	田	川戸	越内	塚保	倉松	田木	中木
本塾	伊藤照彦	腰山陽一	山陽一	正	文英忠	右國雅	英静	靖一	浩誠	司誠	
平本良行	福田靖与	山際正明	佐藤経一	(4)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(2)
送襟紋	引	内股	体股	引	引	引	引	約達	負傷	十字固	引分
	分	股	落	分	分	分	分	腰	分	固	
大將											
○○	腰	次郎丸	佐藤	佐藤	佐藤	嘉経	一介	一介	平行	平	
川藤	北崎	有城	田宅	分山	山山	田山	嘉	一	(3)	(3)	
畠田	勝	貞源	宏倫	草	陽友		一	(3)	(3)		
浩	勝	貞	源	宏倫	草	陽友	清	(3)			
吉	久	敏	介毅	三	夫		一				
(4)	(4)	(4)	(4)	(3)	(3)						

七

12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 六 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3
○ 杉 永 永 堀 松 沢 高 閔 野 渡 銀 猪 五 中 友 稲 稲 稲
大 久 保 峯 峯 川 川
浦 岡 岡 原 井 橋 根 沢 迂 川 原 級 野 田 田 田 田 岸 岸 上 上
秀 為 軍 正 真 隆 俊 正 晃 滿 根 義 一 保
潤 昭 義 次 明 圓 範 雄 男 光 也 郎 輔 陽 清 夫

引分釣足一本背負投
引分釣足一本背負投
引分小外刈
合技合技
小内刈
釣達腰
大内返
優勢
小外刈
体落
大内返
優勢
引分
引分
引分
引分

乙

丙

1 甲組 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 組 14 13
 仲林林林石石赤赤赤野柴長長薄門榦田安安古渡
 村田田穂穂穂口内井井原中西西森辺
 稚政宏正宏征武信松孝康義紀久男
 夫宏樹守水郎彦興平至稔真久

合技 優勢 大外刈 大内刈 横四方 技 横四方 技 大外刈 内股 大外刈 背負投 技 分 技 分 合引 技 分 引分 優勢 分

○津隈良平 田吉泰誠 宇津木敏繁 宇渡辺田村出 石野穗口 野井内藤伊藤彦 野柴英守 野長原彦 野薄守 野門中平 野榦松至 野門松平 古戸森和夫 久

	四級							三級			二級			一級		
	7	6	5	4	3	2	1	4	3	2	野	山	津	村	口	隈
実施されているが、記録は残存していない。	太磯	大鈴	清木	小熊	林	村	桂	正國	啓英	浩幸	幸	慎	良	吉	司	吉
	鈴	鈴	木	木	村		正	國	啓	英	浩	幸	慎	良	司	吉
	引	合	引	合	引		吉	衛	之	範	一	司	吉	平		
	腰	背負	投	分	技											
	松	背負	投	引	合											
	磯	太	鈴	大	鈴											
	沼	田	木	熊	木											
	輝	桂	正	國	啓											
	男	吉	衛	之	範											

○野山口雄吉 司吉 ○山口雄吉 司吉